

松沢宥さん思い 市民参加アート

下諏訪「生誕100年祭」で来月企画



パフォーマンスアートのため16色に塗ったうちわと宮坂さん

生前に交流あった芸術家の宮坂さん

「彼が感じた風を感じたい」

29日から下諏訪町で始まる同町出身の芸術家松沢宥ゆたかさん（1922～2006年）の「松沢宥生誕100年祭」で、諏訪市の芸術家宮坂了作さん（71）が2月13日、市民参加のパフォーマンスアートを行う。コンセプトチュアル・アート（概念芸術）で世界に知られた松沢さんと生前に交流があり、作品や人生を紹介する生誕祭を通じて松沢さんへの理解を広めたいという。

◆ ◆ ◆
宮坂さんは岡谷南高校卒業後、日本大芸術学部に進学。米国カリフォルニア芸術大に編入し、突発的に起こすアート表現「ハプニング」を学んだ。帰国後は大地をモチーフにする創作に取り組み、地図を題材にした作品が多い。

今回のパフォーマンスでは、世界最高峰のエベレストから太平洋のマリアナ海溝まで、標高ごとにイメージした緑、茶、青など16色のうちわ約50枚を用意。諏訪湖に臨む諏訪湖博物館・赤彦記念館前で来場者とともにあおぐ。地元で根ざして活動した松沢さんを思い、「彼が感じていた風を感じたい」としている。

宮坂さんは、松沢さんの自宅アトリエ「プサイの部屋」を訪ねたり、詩をもらったりするなど交流があった。松沢さんについて「現代文明に警鐘も鳴らしていた。もっと評価されないといけない人物」と話している。

パフォーマンスは午後2時22分から参加無料。他に3人がパフォーマンスを企画している。